

小幡彦日記

昭和七年九月
下院起筆下至
昭和八年

特別

14

1919

614

35

40

45

50

師子王全集十二冊を寄る。春陽書を
取重方田利未、ふね流古も給る。利未
谷村一太郎も未書。上代の枝折を撰製
し、交り集りて寄る。

二十二日

雨、京都谷村一太郎、同柱合多印尾
誠克、師子王全集も寄る。礼状も
寄る。雅叙を兼す。山田清徳も訪、原久一
印も訪。古江春松、友岡と交付。坂上山房

榎原製



より注射と受く。木村印、陰と嘆し
る。印成る。更々三顆印を托す。
電山書三々古也。所残金五圓交
付。原久一印と余の隨筆三行を贈る。午
後、復先今の回者改列今に出陳の回者を
檢出。時と移す。徹首向雨ふ。滋谷一、未

二十三日

秋季望月書

雨、復先今の回者改列に出す。回者を檢出。且
月夜と化す。時と移す。雅叙を兼す。内子

と昂の此處を觀望し行く、五十馬旅の味も
一掃利来、又酒を酌み飯を食す

二十四日

雨、改口献古、今朝出版部幹人とも田舎
を訪ふ、中谷海義改養二へき、堀内、八木
雄馬、陸田大仙の、未田の、しを讀過、雜記
を筆す、出版部を刊行の自分の地筆、數
種各五部、九字の七入手す、高田江董の地
筆を讀む

標原製

二十五日

日

晴、原久、中谷、田口、高只、宛書簡を交付す
大江成、山口、印刷、今地、の、沈筆、行を、打冬
余り、校閲を、と、十時、出浴、井、酒、飯
して、物、午、午、睡、免、夕、刻、と、床、上、江、董、の
地筆を讀む

二十六日

晴、朝来、旅、を、筆す、海、色、式、法、行、よ
り、東、寺、田、人、の、論、文、(大、巻、と、大、限)を、載、す

於中央公論を寄す。新島田原此の柳澤
重次訪来月廿五日の創立廿五周年紀念
號。余の揮毫を乞ふ。龜山集三函物を寄
らし来。山田通を乞ふ。故子と知り来。午後
僕んじ上を乞ふ。向時と教養を乞ふ。龍溪
本州の考の一二の稿を乞ふ。

二十七日




時相未。大江成一主稿の日。傳印刷會社以華
史を讀む。細川吉庵主人の。細川細所の。龍刀

榎原製

原市床と買置り受け洋装を販賣を為す。村
余の不用本ある部。差向り支印の。子も協流
す。酒造或流印。乞ふ。寄す。木重と大隈を
讀む。午後函あり。新島田原此の。龍溪二
枚。拙文。文三。集。廿四。其。不。願。塚。彦。治。印。の
り来む。

二十八日

雨。今日。曾祖母の忌辰。下り。傍来り。讀。任。冊。其
原平。乞ふ。来。出。龜山集。三。函。物。乞ふ。六。の。大。幅
を持。冬。小。久。江。集。一。枚。物。原。久。一。印。来。る。金

角、羽来龍水と筆、武田尾去、水次、無聊、固
 人の為、少二三幅、控、立毛、紙、後、下、婢、書、と、梨、栗
 を、貯、来、の、木、村、翠、陰、政、刻、の、印、を、撰、く、来、の、
 梅、瀬、恂、の、湖、色、と、是、の、五、時、千、多、の、好、知



 事、の、扱、き、う、應、い、て、臨、席
 北、解、航、就、て、協、議、す、此、の、と、伏、木、と、川、港、又
 他、の、相、に、於、て、是、の、決、し、を、説、く、と、さ、る、と、自、ら、の、友
 弟、と、し、て、携、け、ら、る、と、此、の、と、さ、る、と、此、の、と、さ、る、
 市、令、減、り、方、況、湖、の、災、皆、運、轉、の、と、さ、る、と、出、京
 才、知、り、と、さ、る、と、臨、席、あ、り、委、り、と、さ、る、と、奉、け、ら、る、と、散

榑原製

才

○
十月

一日

墨、市、部、換、法、今、日、も、高、京、市、人、口、五、百、萬、の
 大、都、令、と、さ、る、五、郡、八、十、餘、町、村、市、併、合、す、市
 二、為、り、七、倍、の、大、と、め、ら、れ、朝、来、雜、報、を、筆
 下、取、果、三、紙、六、時、店、三、大、京、新、加、区、の、主、体
 撰、進、展、望、人、と、を、之、日、を、撰、く、飯、と、均、く、の、
 薩、田、鏡、と、さ、る、予、の、序、を、觀、せ、る、也、甚、者

女市流と客せある菓子一皿添へし。

二日

日

晴、朝未女市流を後、即以上山を了り、注射を
施す、龜山寺に参る。文三、雪泥を舐し、朝
出泉と申す。不久江村一寺訪、城後高田の
年固負小島徳印、山田儀兵衛未持、午後
出遊、和生とを安しと物く、押巻と新巻、
新巻と赤、濱田殿之とくせり。

榎原製

三日

晴、細川有庵、不用洋装、本三、三、九十八冊引、
く、山田山心、海のく、家、馬、西、辛、馬、琴
の、某、提、寺、深、克、寺、く、馬、琴、遺、什、陳、田、列
二のき、月、荷、ま、〇、回、者、整、理、二、夜、る、午、後
亦、西、降、る、京、都、の、院、院、大、文、字、と、松、葉、を、贈
集、ま、る、近、海、の、東、へ、宮、内、殿、の、合、天、井、二、押
巻、を、頼、ま、る、日、比、の、有、志、者、と、ま、る、乾、魚、を、持
参、通、官、あ、ら、う、つ、く

四日

雨の占印刷紙多能公東五人其ノ山陽の
土橋の燈籠を修ふ七百石積り五十石を修ふ
寺も松ノ草を定むる也其の午後何由迄是
詠大坂の出来儀三申す松ノ草を定むる也
早稲田中寺も祀り人の道條列の九の寺士
分給)

五日

明武田尾吉馬琴寺深光寺任職作存

標原製

早成細川院去す可振、強忍を著す、
難奉受上代り四十四細川も銀出今井七中
可成早稲田寺校に余公常つて執筆下りる
校関係相好者る人の思ひ出を叔母見こと
を為し流す、午後教養文の巻をゆかり
同歩代り由七十月掛入、

六日

晴朝未遊眼を著す、明日旗物入、
出と陣列、まゝのき家花書金利法一個

文林堂山車三二一六大幅代十田拂、高山方上
リ、以榮茂氏の妻の状判、高山房記念会陳
列、小田村留客當日沈六冊貸付、美杉書よ
リ田中教の山甚粘系致二冊を定、毛母
、午後二時東京堂の陳列佈、到リ複製
今、同方海列を觀且つ家蔵本を自、から海
列し、五時紅美館に到リ睦會と臨、正、今
日の今、余尚書稱、也、大改神田友得、是
松、年、と、始、り、未、る、是、本、影、謄、中、八、輯、配
本

標原製

七日

晴、朝未、強、烈、と、甚、す、神、田、友、得、系、の、美、杉
書、海、外、を、見、たり、早、大、五、十、年、紀、念、式、典、の、為、
藤、川、の、宇、都、古、其、終、と、栗、を、送、り、未、る、森
脇、武、田、の、江、東、の、出、水、日、本、橋、の、物、と、嬉、し、い、
書、後、研、究、

八日

晴、高、山、房、の、中、谷、川、福、子、未、る、山、中、村、の、書、局
外、送、書、三、冊、貸、出、其、森、脇、美、杉、武、田、尾、末

一、卯登美夫六人江村之文を耳流山口別荘
既先云の報を少く、午後宗家の徳志今午臨
む、立時安んば五祐子息結婚披露の宴あり
く（東京今午報）十日卯午持参、矢吹有
妻、未近、松相永井柳方らりしと未書十
三日夜官舎の宴ありと報あり。

九日

日

卯、朝来その報に連載あり、早稲田万子、川俣
の持故者の思ひ出の傳言を伝ふ、山林、三

榎原製

及川茂雄（弘文在者傳）来稿、十一時子
士今報に到り、早中の社員、今午臨む、午後
市山房の社員、采をえり、北海道の金田、実、片
らと、親を定り、て、宇尾、呼、遊、来、訪、東、京
費、く、臨、列、の、回、考、夜、こ、入、り、虎、り、来、り

十日

卯、朝来、旅、報、を、筆、す、内、子、佐、長、代、り、東
の、病、を、三、川、に、訪、ふ、為、め、出、発、し、十七日、大、阪、を、戻、る、辰
高、田、協、会、物、縁、除、幕、式、の、あ、お、内、朝、に、武、田

尾を来り山口副死後の左衛門其の二のき流す
山口副の葬式に香典十日遊り、富山前へ紀
流と讀み時を移す。

十一日

時、井上辰九中島の社に接す、永井振振ら
未簡、日比谷園方館より東京實業誌料目録を
贈り来り、早稲田大書局より来り、十時、信印副
今社の重役会に臨み、坂上北花より例の注
射を受く、信生大書院法合社を建設し、

棟原製

廿日、投宿令に招き、中山前へ貸付の留
富口流外是り来り。

十二日

時、本林那田村社二ヶ所、系久一ヶ所、坂田増
川崎真流流意の文、新文より手接、函
金田實八より、来り、坂田川崎に前し、余
何年保存の陰葉書札を前時、萬念
の郵便持物、寄附を約す、午後文の中
を記して一二の図者と得て、函送す。

實に中二の成心と見す。

十三日

時、早報に招くべき吾國人の思出を打ち先
安家の家族と曰夫、遠近に出づる山田信忠
其の紙の標を十数程を贈る。桂湖打子
息の地職、就て来訪、木村翠蔭其の
印刷代之用をす、小久江成未流、遊て中央公
論社の途中雄心、河内合集出陣の件、皆
未流、平山也と書書、其主陳列、日記を寄

榎原製

て其の、午後古山、清瑞と列り井上辰九郎、安
の告お式、路の、香典、十日、贈る、五十、の、海、念
寺、の、葡萄、一、花、を、寄、せ、耳、の、熱、海、木、之
宮、の、合、天、井、に、揮、毫、を、頼、き、ん、風、氣、集、卷
古、の、四、字、を、書、す、永、井、拓、お、と、祝、う、ん、上、時、に
り、其、官、舎、に、列、り、滿、蒙、の、映、畫、を、見、完、安
合、に、列、ち、執、行、の、生、田、七、中、に、投、筒、

十四日

時、栗林母子、未流、物を、贈、る、今、田、高、原、也

揚、伊原輔利を道判論集と定めて来り、出
滋珠路各、二三の回書と婚氏日本橋に致し
て切る、早大を以て刑を世紀の早稲田を考
せり、また、本館を美大に改めりて来り、二時
頃地客あり、

十日。

雨、午後山平と中、お葡萄園一畝を考せ来り、
桂湖村依頼の件、三つは谷長谷らへ、別す
亦日時、湖村に預けり、早報と音信の原稿

横原製

と此、原久一命母来り、念肉を持参、
所ととも、是す、半世紀の早稲田を勤法して時
を後す、午後書史を今回と内、
を治る、
考才一面配本所、市山鉄を、
念寺、
澄来り、
未又、
七、

頃、今朝より積雪甚し、二入の干入に及ぶ。松井
 會社より雪甚し、互批伴存、其甚、朔大隈彦
 家、右の物候を、雪甚し、来、後、又、右、
 此右三宅正大、一日、雪、二、為、邪、こ、進、す、
 二、の、ま、余、左、社、中、の、進、德、福、を、筆、記、し、
 去、二、日、用、書、し、送、り、沙、家、全集、出版、の、件、に、付、
 来、紙、昆、田、末、之、人、来、物、候、を、記、す、能、候、を
 景、す、午後二時、早、大、の、大隈、講、堂、に、式、を、奉、
 く、此、日、秩、父、宮、殿、下、皇、上、と、御、美、老、を、奉、

棟原裁

御臨、北、内、閣、総、理、院、方、信、文、部、大、臣、又、臨、場、回、
 中、総、長、先、づ、恩、賜、を、披、蒙、し、式、辭、を、陳、へ、首、
 打、文、お、交、互、を、長、林、陸、海、米、田、大、使、校、友、
 總、代、杉、平、頼、壽、伯、祝、辭、を、奉、進、べ、大隈、奏、
 詔、書、を、陛下、の、前、呈、上、を、三、唱、為、儀、を、御、下、
 御、退、席、萬、年、三、唱、為、儀、を、校、歌、を、奉、
 奏、終、つ、て、大隈、令、領、庭、園、に、遊、歩、を、テ、下、
 内、に、山、家、令、あり、二、千、名、来、令、以、上、生、式、午、
 場、到、り、七、殿、下、を、送、り、敬、之、式、殿、を、奉、
 幸、に、無、事、を、得、り、此、日、来、令、若、し、廿、世、紀

の早稲田並に大隈辰吉條を刺して好むべし
今つと今衆に欲つ生田七郎とて来事

十九日

昨、武田尾吉出陣部の変件につき本城
大石現因時と来訪、早生か蛇と雄(小蛇
義と(好)其功、早大出版研究会に出陣
す、旅法と書す、早大出版研究会と出陣
旅法と書す、早大出版研究会と出陣
場ニ祝賀式あり午後東京会館に校友大会

榎原製

あり其に臨み、早大出版研究会と出陣

二十日

昨、田中光顯伯に伺して早大五十年
式典に關する話を報す、和田萬吉
二一と云ふ、関大より来志、小林久平
(早大教授)の四様の青梅を授け、眞實
の鶴をとり、早大出版研究会と出陣
す、未月四日、早大出版研究会と出陣
演と頼まん、関に任をせ、其の原稿を心る、

丹美協平車の世紀の早稲田を其の、田の生
り活生命令、海濱今祀の築後成投宿の事、
概え行く、新築壮麗、任事二る五十年、
其、此帯之り事と別し、連、築費約五
萬、山、河より三、る、り、り、り、
室と列す、早大の号、生、核、る、一、萬、五、千、人、造、成
行列をり、事、成、前、謝、恩、の、事、早、大、を、
七、散、す

二十一日

標原製

雨朝来強、雨と事、す、雨、の、文、の、場、合、の、り、き、森
陽来核、和、苗、古、加、不、福、た、り、来、出、り、
都、入、核、の、種、を、校、正、す、以、上、に、注、射、を、施
す、石、川、の、核、を、川、村、養、を、山、湯、の、山、陽、を、
矢、燈、を、上、に、巻、運、今、の、神、宮、の、殿、を、
午、の、後、以、上、に、海、田、和、民、の、日、未、思、教、諭、を、
其、夜、に、入、り、事、を、能、保、執、事、

二十二日

晴、山口到、貨、り、重、き、事、六、村、園、狂、歌、行

本虎より来り、武田尾毛山田清心来後、竹林
久平、日來、ハークライ、トの菓子、並
五枚、贈り、出版部、並、近刊、遠田、博士
の、新著、満洲、四稿、並、と、四稿、聯、の、出版
部、に、配、下、を、交、り、學、園、の、入、札、を、更
々、校、訂、し、て、時、を、移、す、熱、海、を、一、書、未、刊
即、來、る、木、の、宮、合、天、井、の、揮、毫、を、交、付、さ
校、を、朝、倉、文、夫、心、の、大、隈、侯、に、細、像、を
贈、り、熱、海、を、酒、を、瓶、挿、毫、の、謝、礼、と、し
て、利、來、る、午、後、華、族、會、館、に、到、り、文、の、場、合、の

榎原製

例、合、を、ひ、ら、き、遠、田、博士、の、講、談、を、聴、く、関、大、
郎、に、隨、筆、奉、成、六、程、を、郵、送、す、

二十三日 日

而、今、私、演、劇、場、物、波、に、到、り、雅、樂、及、能、樂
に、関、す、特、別、の、演、劇、會、を、見、る、此、の、演、劇、會、を、
宮、内、者、と、し、下、物、の、ま、く、の、藝、物、而、お、り、家
元、湯、家、の、出、陣、を、入、陣、と、稱、し、つ、作、家、の、發、行
の、出、陣、を、入、陣、と、稱、す、か、す、よ、の、少、あ、ら、な、い、場、に
觀、望、中、に、関、大、名、の、次、官、來、親、有、り、是

報に載す(べき)余の考の行を(天)に、午後龍泉を
兼す、不日前島紀念郵便協会の寄附するべき信
入(り)をアルバム及び十冊を授け、七時を移す、
旨いと板本を二人未(る)

二十四日

明、朝来龍泉を兼す、傍に教来館に、酒飯
一(と)はく、國解現代百科辞典才四冊既本、
西琴今(も)未(る)、四種今(も)未(る)、給(る)ら
きアルバムを若干冊授け、板本を二人

標原製

未(る)

二十五日

明、龍泉を兼す、傍に、杖を教(る)に、前島紀
念協会の寄附の給(る)らきアルバム六十三冊
授け、三十冊家(に)留(る)板本を二人未(る)、中津
角(に)中の計(に)列(る)、改(る)上(る)を以(て)七時(に)入(る)ら
木炭四十俵(に)到達(す)、南(に)大(に)津(に)中(に)未(る)授(け)午後、讀
書(に)無(る)聊(を)慰(め)す、杉田駿(の)計(に)列(る)、出(る)遊(覧)
の考(を)め(る)記(に)用(る)具(を)購(入)す、今(に)廿七(に)中(に)計(に)列(る)

二十三日

明治の博士の満洲獨逸と協定を讀む。十時
散策九じしの古物市を見、成道の公の巻を讀し
遂上、リットン報を考を購ひ下谷の文の巻を
訪中二の圖書を得てゆく。馬琴合の伊原
号成中村善念寺あり。

二十七日

朝、朝来馬琴の館をの誹演の石を乞ふ。午後
加茂田下政流をも難を解り来る。馬琴合の

棟原製

つき中村善念寺あり。植木庵二人引つ、つき未
く、薄雨と歌謡に来る。外山倚り、つき未出、中浮
所次中死をにつき、帛状を乞ふ。午後、龍泉を
筆す。先令、鹿の家の子入る物、付のん、紙
後、向けて書す。

二十八日

明日、本石油分社をも配南来り。田下政流をも来書
市方をもおとす。十時をも散策村の古物
又、桂山、自本を購ひ十二時迄歩し、古兵器

此録七物く、板不居ニ八月つてき来り、月吉家用の
物定の角ニある内由あり、交付十加田湖方五の忠一
郎の御恩利に、後以漢書ク揚、列。

二十九日

此朝未始候と申す、杉分杉方より未書板
木職二人来り、午後散策丸いり、物を辨りし由
へり、此候と相談し、夜に入る、御飲ニ申し未書
早稲田中、今より十一月二日記念式のある内列り
来り、此の支店より定例預金未月三日期満り

橋原裁

古通候あり

三十日

此朝未始候と申す、関大より来りし由記
り来り、板木分二人引つてき来り、馬琴の條漢
筆記を補足す、併に来り、丸善寺倉を改心
機上公堂に、飯し散策し七物く、立細飯光り
電燈来り、故後又付荒木音花より来り、押立を
需め来り、元候より御書。

三十一日

而武田家も来兵後上は死を以て江射を
多く、今も敵原より曉しる鎗金なる人の
留成の巻も亦、押海、伊原等成中村美金
馬助等今に就て馬坊、長坊を利若狭成を
付めて来る。是れも増田義一に成り、徳川を
兼て、春湯を以て徳川本州、初行り揃へて
送り来り、一宗の難文を清み且つ抄す。富家、海
書も亦、在兵海防内(道)送、技術、書物
趣味編輯人より来り、且つ在法令の出席を来り。

種原製

○十一月

一日

昨、木下人より、字三、機帳を寄る。来り、その事
り買す。返す、海(道)式、次、中、兵、大、隈、屋、間
係、文、書、才、一、冊、印、刷、成、り、贈、り、山、田、氏、心、取
り、種、知、本、紀、本、ホ、久、江、外、之、経、を、来、り、去、り
省、三、娘、法、時、按、察、の、事、内、列、(十四)種、紙
を、兼、す、種、本、念、六、来、り、且、時、東京、令、館、に
打、け、り、田、中、吉、山、伯、の、九、十、の、誓、合、に、跡、を、及、所
茂、堀、も、来、り、前

二日

陰、応司淺如、と車方、本林脚十日、元引所の海法
分、つき、来次、遊、と田中、穂積、来次、午後、解、以
細雨、別、の

三日

徳部

晴、朝、来、旋、廻、を、業、す、去、日、の、夏、妹、死、去、り、つ、き、
内、子、悔、こ、わ、く、。 悔、内、の、道、も、と、こ、来、書、古、山、の、
多、年、苦、心、の、大、書、海、才、一、巻、出、版、の、つ、き、十一、日、
其、の、投、書、の、為、と、書、入、り、候、く、振、う、る、。 田、中、穂、積、
来、訪、去、日、の、方、十、四、日、田、中、燦、と、野、の、植、木、局、二、人、

棟原製

来、日、午、後、散、策、。 文、三、十、日、の、二、十、四、交、付、の、為、
不、返、三、ヶ、月、の、作、年、も、持、卷、

四日

雨、朝、来、旋、廻、と、業、す、。 夜、口、献、去、り、法、部、の、定、
助、預、金、四、千、五、百、円、の、為、七、ヶ、日、別、出、し、。 三、千、八、百、
円、と、改、定、定、助、に、預、く、。 所、得、税、附、加、税、三、百、半、
七、日、七、十、八、日、納、付、畢、。 電、話、料、十、九、日、六、十、
八、日、納、付、。 法、部、此、来、の、午、後、上、野、村、政、局、
リ、馬、琴、合、の、若、の、一、場、の、海、濱、と、ま、し、。 三、日、四、日、

大出改部の重役令に跡正、馬場等令の儀主等此
令通年諸事を終る未_レ

五日

晴、植木殿二人来り、長子殿の贈禮宣次下り文
向方院及債一件のつき未_レ訪、龜山車三つを星
石露根、蘭一物を贈り債二十員也、淨念寺
御持書、本年分三十員下り、御大寺、御大寺、
矢吹者三、祝物十員切下り送、山家殿、
子一羽列来、長分附属、凡名地、新築、代々十

積原製

三日卯、浪世に敬来、資生堂、後上七物く
了、上命に於、資生堂の馬琴、遺品、屋敷、院、心、并、形、器
新物、産、陳、列、を、見、る、三、時、一、杯、致、意、令、飲、
和、き、園、心、の、産、陳、令、_二跡、正、徳、有、安、田、壽、七、八
不出席、後、本、嘉、法、馬、來、訪、_一、新、築、比、念、為、代
二百四、略、々、_一、_二、澤、更、會、面、あり

六日

日

雨、雷、家、家、_一、海、也、と、是、す、_一、_二、狂、狂、と、兼、す、
宇、尾、會、講、と、未、集、_一、_二、六、吹、島、池、_一、_二、嫁、主、と、兼、す、
也

七は少く未の午後敷葉之の巻を功を二十日
拂入、村口出店を功として言本巻史を繕ひ
代金三十日拂満、二時代を降雨

七日

晴、相未懸紙と筆を、平山やぐり巻店心者前
代金十日跡減舟白字奉平年表代五十日拂満、免
山年三箇巻を徹並換山のみ物抄入、有杉産
春葉の漬物を贈り、元家家を歸と横江へ
赴く、入札目録平山巻として、別年、小淵を清し

棟原製

理相友、午後初回為去、再張、少利、巻紙、利
り、陸合、臨む、未、今、名、本、手、植、原、酒、色、増、田、と、有
五人

八日

晴、平山、巻、紙、と、道、利、大、言、海、四、巻、の、由、未、二、巻、
出、功、の、つ、き、字、方、巻、を、考、へ、本、司、漢、の、み、と、未
あ、ゆ、み、日、付、漢、巻、の、函、の、巾、と、ら、ん、昔、方、巻、を
こ、と、し、十、法、と、酒、飯、七、物、く、り、旅、帳、を、筆、一、冊、を
初、巻、植、原、と、人、引、つ、き、未、の、東、北、地、方、初、雪、あり

九日

昨、桂木忠久を以て、友相の喪禮に外、石川好國、
芳波中由部生、早稲田中、若末忠、西村博士、祝賀
会、多未淵、十時の信印刷の重役、今、此、市、信
鉄大、い、い、未書、米、回、大、後、飲、以、送、に、共、利、堂、殿
に、民主、空、幡、ち、ル、い、ぶ、ウ、エ、ル、ト、市、送、い、

十日

昨、松上弘壽を以て例の注射を以て、武市
定七、田代亮、依の若、稻と、旗、帯、予、の、序

榎原製

文を以て、馬琴の壽を以て、謝物を書き、
武田尾光、其、指、既、と、少、人、以、外、之、其、功、也、
時、百、念、代、の、人、事、山、河、卷、の、き、流、す、東、京
講演会、い、い、余、の、馬、琴、に、就、て、の、講、演、(東)
記、録、を、郵、送、外、部、を、承、め、耳、を、教、養、文
行、事、に、古、文、考、一、卷、を、贈、山、桂、湖、村、米、酒、三、時
半、株、式、元、引、不、二、文、の、場、合、の、演、説、を、承、り、い、く
行、人、(新) 会、前、主、會、の、状、景、を、觀、り、(新) 會
の、辭、を、傳、へ、(新) 崎、元、引、不、理、子、吉、の、撰、抄
あり、米、回、大、使、館、付、高、級、を、請、わ、い、り、也、

ルウト、未回ニ於ケル高ニ集、就ニ長時間
海濱ニ畑久ク在リ、海、畢ツテ平次、海印の
講演あり、余ハ中座シテ東京會館ニ赴キ、
常山房の大言海ニ投函の案ニ臨ム。

十一日

晴、朝未旋舞を舞キ、山ノ守市嘉流キ、東京海
濱會館ニ未書、田田下政次、或次を伴ヒ、
出浴也、接心井ノ子、飯ノ七、切ノ本、日ノ本
棚修理成ス、区長と市帯、愛哭、要務

東京集

観劇を定メ、牛込、路、復、園、復、の、の、の、の、
通、除、刊、の、文、の、場、合、の、の、の、の、の、の、
本、十、冊、刊、未、

十二日

晴、田中早大、総長、来、訪、者、時、間、：、五、時、出、發、
部、の、政、革、問、題、を、評、議、し、結、論、概、論、を、
決、す、特、殊、回、答、生、活、の、女、百、流、終、身、命、を、定、め、
来、日、録、也、七、葉、子、を、贈、り、来、る、の、午、後、一、時、安、
田、義、次、方、ハ、此、キ、書、史、の、人、々、の、例、合、ニ、

心あ、十九日稀敷方陣列の多オを協撰す、紀念四
版宋本御注書経複製成る、舊刊影譜十九日
迄出来の道にあり其見本を又、善本影影
譜九輯、配本を受く、病おらの譽を受け
教令

十三日

昨朝来能原を兼より、片山利久と未出、余の標
巻と押毫の流法、出版研究、玉内教刀
送り来り、田副向と名も、未書、先を付せ

榎原

諸考を、を教来日本橋、以時、飲んゆ
日、二時、比、宍、あり、後、の、後、を、片山利久
三、河、す、井上、辰、中、と、と、不、幸、の、節、考、典
と、ま、り、と、り、込、礼、の、物、を、終、り、来、り、女、百、派、(後)を
後、に、

十四日

雨、朝、来、馬、琴、に、就、て、の、講、演、速、記、に、加、筆、す
一、七、時、を、費、す、武、田、尾、吉、出、陣、部、の、改、革、
訓、巻、の、つ、き、来、り、内、伝、し、と、す、予、後、克、文、堂、者

三娘の婚儀とゆへに帝回出せし内ヶ崎此三印と
未去寺此元重島の跡刻る伊地知純正松屋
董湯とて来候、女百法後帝後多入夜来風雨
はゆし

十五

風此危の烈風市内、損害と其多き大也、金
子馬次河内全集日と中央公論社の件、の
き来流、少く江村一隆と来流、此危の烈風
あり庭樹の焚く、この三四あり、植木をむ

て修理す、市大回文を社、とて深比物修
修り、この女島の跡、丹美原示、この間し
村上舞臺川通迄と敷、寺跡元重
島の是と、このき、午後中宮の宅を、河内香真
十田貯、山米堅、今井一印、この間、は、す、河を
頼み、備屏と、理す、之の巻も、つ、

十六

時、相未早稲田、若報入、定つ、さ、き、稿を、心
、植木を、二人来り、一、を、修、地、成、森、林、陽、

詠桂湖打ニ書北を尋す。山田信心其弟。曰
下寛造予を先人の遺稿庶友在遺稿二
冊と号す。其の半の後散策、細後大康吉田
くし塩引を寄七集の、又別とて兩列の歌目
善文と未志、亦郡中安信三印の詠列の

十七日

所、武市定七、桂五十印、平印、望美夫、武
田尾文交の、其稿、学報ニ載すべき物
故法家録と筆心す井上書店、函出を尋す。

文の甚好者能載を寄七集の、午後散策
抄中書并井上書店、函出を尋す。

十八日

兩、相来る稿に寄す。其の稿と筆心す。其
古を居しと題す。一稿と筆し、ブツと
以社の石司改め、字あり、午後散策、其の
為物を贈り、丸善書店に入り、切支丹関
係圖書の陳列を見る。中より、近く船載
の書も四年出版のギヤ、ト、ベカトル上巻あり

リ一瞥眼福をゆかり、又利夫限令飯に列り
隈門令と跡々、景慕令の徑之、二つき一坊
の報先をとす、國語令、るる中三中
り、物を貯る、

十九日

朝未始、書を筆末、書夫、書令、二松
書刊稀觀、本居、次令と催す、二つき、今坊、友
言令、飯、に列り、飯、列、の、回、方、八、十、八、點、を、見、る、
午時、初、の、書、也、と、東、都、中、大、司、書、官、山、三、麻

櫻原

減、し、印、を、授、し、七、祿、田、川、二、年、あ、ら、し、五、分、今、坊、
に、今、日、月、令、右、あ、ま、の、ま、く、始、終、人、を、以、り、て、
二、印、刷、中、の、舊、刊、影、諸、成、り、今、又、二、頃、の、六
時、此、令、二、特、に、努、力、せ、る、福、井、川、瀬、長、海、の、方、め
連、産、所、の、住、田、方、に、可、入、并、寄、り、慰、勞、の、意、あ、を、
張、り、庄、司、淡、水、の、物、と、ま、り、未、だ、春、陽、名、を、こ、も
本、州、の、各、坊、料、を、以、り、と、す、る、田、代、亮、分、ら、も、
未、だ、

二十日

日

時、朝来館本を兼す、往家保多物と一校して
早稲田号報く、授り、十時以出、滋日本橋筋と酒
飲してゆく、山田直也と相討く事も有る、
再旋館と兼す、文木を多く其の不意の宋元
版の善本と歎き、其目録を録す。

二十一日

所、諸書二と未出、新書を文庫として、
録二巨冊を贈り、西化館洋装本より、
と注文す、坂上弘茂より、注射を多く、
田代亮

棟原製

成の道、若良寛と山陽の序言を他、初
稿成る、日本真伝所の及川望来り、徳川家
對面本館場、今日、海法沙汰、新しき
あり、京都便利書と、尾崎本萬葉集一冊
配本、古田本末七人のみ、内子観劇
二行、白布巻の書林、今日市に、持り洋本を
贈り、ゆく、無形本を兼、一巻、入る、新書本一
と未出。

二十二日

成、朝未龍蝦と華子、尚余中より其流野を
中、整美夫人社のりとも未済、石塚より入来候
石川好くとも古改展親目保を客也来り、石塚
より一二物を贈り、法橋轍次中田邦造
に授け、書出さ合ふとも善本等影譜才十輯
既本、午後予に傳へて散策上り、成美を遊す
をゆくり

廿三日

新當祭

所、山田法也より、複製今を二冊既本、稀

棟原製

高家伝記の印刷札出来、内子親到り
キツフ代、華印刷費廿二日消す、武
中定七、代高小、も伝頼の序文を交
付す、久江、一木村翠、陰未済、同者
飲場、今、雅法、に、ねらふき、稽、を、立、て、二十
枚成り、二時、三、キ、四、社、印、刷、場、法、也、に、伝
む、今、法、也、内、子、親、在、也、大、徳、を、決、一、番
受、と、奉、け、候、公、と、其、つ、り、七、教、す

廿四日

明、羽未田若敷城分の旅帳の寄付とて
箱と書き、傍に略々成る、是は又庫の関
請とて未出、藤田旅帳とて、相河右左衛門
とて、旅帳を寄付とて、取付分とて、未出
龜山書三親家送り交せの幅を相付し、
木打四半陰と爲り、印改刻成
の、関請とて、尚とて、教来丸心
几内の古考展とて、二の籠古と籠心
停車場会堂に取し、し、文藝春秋とて、
年節、寄付とて、未出、



廿五日

明、中打善念木島辰巳印、花出印、
考案、一、命とて、田舎館協会、旅帳、寄付、九
時、高の古、妙、込、込、込、十一時、迄、出、取、部
印刷、分、社、の、要、件、を、内、議、す、植、木、会、分、会、
仕、末、と、未、出、午、後、安、山、子、一、命、を、寄、付、し、
文、藝、春、秋、社、に、寄、付、す、予、刺、東、京、会、館、三、利、
西、打、其、四、次、の、協、士、部、を、得、此、祝、賀、分、会、に、贈、り、
明、也

二十六〇

時、朝未旋舟と兼す、閑請と未出本州にて
寄りしき、虫と詩の一稿を寄す、木中旋徳
社と未出、植木強引てき、二人未出、余の寄
稿、花屋の今昔をぬり、近刊「本州」刊達、午
後散策、ゆ来又多好報業、春湯を氣
賀林一に郵送す、三時迄と雨より出さ
日未拂の内三百五十四由より交付。

二十七日

9

時、朝未志田、江華の臨業と讀む、散策文の巻

横原製

を、市を歩、毎月、山々の行、心を嬉し、日古、持運に飲
し、ゆくり、ゆき後旋舟と兼す、江華の四、山々の
柳、竹、空、流、水、年、節、の、押、毫、を、宿、ひ、し、未、出、津、山
実科、山、の、枝、段、成、つ、き、海、心、制、す。

二十八日

時、朝未旋舟と兼す、武田、尾、去、と、出、散、部
の、子、と、協、激、す、氣、が、林、一、と、未、出、今、朝、未、久、方
振、り、節、の、氣、味、あり、午、後、後、旋、舟、入、り、込、込
内の、水、亭、時、防、衛、任、是、に、松、田、寄、附、す、文、三、身

二十日其友人と夜合の森ニ遊りて(10)の樹の
たす樹木を修理す、木炭代六十四拂函

二十九日

咳止し引花を、森林協成上未と改しと
注射を受く、病床より能治と著す、病
歎全る五十四日引出す、早漫画紙等の書多
可史あり余を西とんと病の如く余を
終日能治と後み葺守中のあり

三十日

時十和田湖の小松を果物を狩つてきて、
病中より病中を、金沢文庫に
関する動物と狩り、一時病の如くあり、
植木を幼を七十五日拂函、病を能治を
著す、先立川の休養を、加多美平六日
病中の貧窮を訴へ来り、病中を、
夜より病中を、夜より病中を、
立川休養を、病中を、

十二月

一日

晴、風氣未回復、せんと今朝病床と拂ふ、朝未迄
報と筆す、山田法師未帰、新油の冬外套、兜
履も持来す、長澤規矩也の近著江戸地
誌解題、附居廿七巻を寄てり、今
昨の去澤規矩也、簡す、又刻す、旋經を
筆す、

二日

標原製

晴、星報の寄せり、文の校正、摺り来一校し、返す
関詰も未書、静く、旋經を後、水口を酒
す、午後星報の寄り、筆心す、十二七枚
成り、又刻：到つて已、庄司淡舟、原未如
寺僧丸山法舞来、山田法師のせんと、今
七、今津八、と、細書、到り、四信、今、他、と
未前

三日

晴、新書、田の成、文、書、寄、原、淡、舟、を、寄、り、余、の、家、の、田

花うと先考の著書ある三四志一函を贈る也
此の肥田中畏之申遺族と錦州遺族と
之を也集る。卷首に余の序文を附す。余の法
流の速記録を授て時を移す。物中論次
古稀紀念の出版して享壽百文存二帳
十冊出版成り配本を多く申中伯と謝也列
の敬目善吉と未出ふ志略を愈白初め
外山外生とありとゆへ

四日

日

横濱製

陰、古抄の肥田中物に關す。花田を兼ふと
神谷虎茂入流中の冊異に原平に方状を
書す。大隈家別邸にも兼吉の族抄に物異及物
を贈る。坂田誠平にこのき合を呈し三冊を
郵便法物紙、喜助のお念を為す。お出あは
家より大正書一束あり北條の由石大
隈お郵くの身事書と稱い肥田の由事
に似しとゆへ。敬目善吉の件に付市立
甲申と未出とありとあり。

五日

陰方病流を早朝事功、武田屋を診て列る、
光を伴ひ物と商して別邸、大帳然あを
治、出頭印税勘定五十四日領あり、
系重推ししあり、
花亮在り未出、
花江を養す、午後六の巻と訪り、
圓者と鑑み
三十日拂入

六日

向、花江と養す、
而号敷、
字のすべき、
傍り

桂原製

と養す、
木村、
臨美、
柏未、
振、
午後三時あり、
美、
次、
中、
方、
又、
報、
き、
稀、
云、
種、
あ、
今、
の、
日、
入、
と
今、
夕、
五、
時、
お、
ま、
あ、
段、
の、
睡、
今、
と、
歸、
去、
垣、
あり、
直、
堀、
四、
為、
と、
今、
飲

七日

雨、
坂、
田、
試、
三、
陰、
ん、
う、
き、
ア、
ル、
ハ、
ム、
六、
十、
二、
冊、
交、
付、
一、
月、
辨、
に、
指、
勘、
の、
物、
か、
花、
家、
好、
あり、
好、
き、
報、
二、
字、
あり、
十、
時、
申、
申、
種、
積、
と、
出、
取、
り、
と、
今、
夕、
沙、
為、
全、
集、
を、
中、
央、
公、
論、
刊、
と、
養

價賤の委ます件、このとき内議す、早稲田の古道
今も、余の押是をせしめ、新石吉田和
男らと未書且梨果を贈る者、今夜築地錦
水に一ツ橋大寺時代の同窓会を開く未分十名
予も其か、伶元うきさ、考姫、つて、坂田増五、
二舞也をせす。

八日

市、旅泊を著す、早稲田の古道、加次、産孫
米二斗、利未、武田、宅を、馬池、重、中、水原、本、山

棟原製

寺、佛九山、海、舟、も、船、北、傍、本、施、と、世、不、平、浮、金
三、中、も、と、生、難、一、尾、利、未、予、伊、志、田、安、原、
洲、也、と、先、す、丹、美、原、平、と、未、向、四、時
美、志、波、の、四、時、也、と、此、と、四、時、合、二、時
也、席、上、西、洋、画、畝、の、シ、ヤ、ム、祝、祭、等、有、映、畫、也
觀、る、九、時、内、也、偶、と、吾、樂、作、家、の、為、洋、行、の、江、口
暮、成、未、迄、し、あり、也、智、時、流、し、別、也、

九日

夜、早、大、田、中、信、と、板、角、も、未、訪、十、時、り、也

印刷舎花の重後令と跡ふ本香配高六分
と決し紙分の日を廿八のと定む、後白紙
と果物と空のヤウある、午後旋ねを業し
夕刻紙估合と跡ふ、令九の内大改ビルのレイ
ンボ、ガリル、未令者百に重人と、余早上業
山子の説を陳ぶ、京弁便利也と、種書名の異本
天平ノ金雁尾を贈る来り

十日

崎山田信忠、山本太の所分と、坪井辰男来

梅政上より注釈を施す、十一時出、部部信合
に臨む、今朝未無配あり、ハる四十圓の愛其金と云く
午後華談合、例の文の場合の例令と云々、
東京も華談合、各校教授、福本福三、生来の
将来に就この講演を云く、其後の来、
師の書文、今令に臨み、晩令の後、
多野日英世、頗る冊を寄る、

十一日

日

時、朝も花を業す、村山秋浦、山陽の書
幅を齎し、寸分もあらず、十一時迄を候

出遊紀行の終ると仰へる。此紙は終ると終る
邦の押書をも託さん真、尾に「吾に致す
為に致す。初めを浴す。出遊中一二の文哉
と終る。文三十字。其隙子を張り括りく。後四四
即ち海を渡る。敵目善去と未む。

十二日

頃今解武の信を曰付熱海。海由道邊を物
んとしため中央ステーション出が十一時六分
熱海着午五分後道邊の石をぬかへしと記

木名山の上の重さおに似して後行く。此行は
全集を中央公論社の請に應じ。主筆侯殿を心
せんとして。二行約束條件を協議せん考りせ。七
子の行内り笑ひし。出で。古館部の託せさる不
るんとも。或る條件を中央公論社に託せ納め
入控せ。道邊の文印を納めしとして協議
及び此の道邊の多めの異議ある。決ま
ず道邊の勘考を待つこと。し。四時前
て印金に就く。坂達の託をやめく。夜、入りハ
雨

十三日

時、北條は後継の押巻を定む。丹兵衛平一と
難の境川を定む。格を定む。とある。出
羽物と端山、不二家、飯七、梅、頼母子桂玄
今山陽寺前、の巻二匹を囃せり。坂田増上
郎と、謝志、利、龍、三時、帝、四
國、若、彼、と、利、り、同、者、彼、場、合、の、理、事、人、等、に、依
あ、加、ぬ、着、心、未、立、来、り、頼、母、木、桂、玄、に、簡
す、今、夜、同、者、彼、場、合、并、都、と、目、里、の、雅、叙、圖
に、公、公、い、す

種原製

十四日

時、今朝九時、田中、穂、枝、全、子、馬、次、武、田、尾、玄
と共に、高田を、訪、れ、て、出、版、部、の、改、革、問、題
を、内、議、し、翌、日、本、皇、半、減、株、を、奉、還、の、事
案、主、幹、を、部、し、尔、後、高、田、余、田、中、全、子、相、談
役、と、する、こと、并、に、今、後、の、報、紙、を、評、決、し
午、時、物、志、例、年、の、如、く、就、緒、く、山、陽、寺、前、の、礼、に
して、花、油、廿、五、匁、と、考、え、て、阪、上、江、島、の、油、
季、は、射、料、五、十、匁、例、年、の、如、く、考、え、す、全
る、日、即、ち、目、交、付、文、行、中、を、訪、れ、て、之、を、代

四十四日挿入

十五日

町殿母木桂其来初後迄(重)と来也、木林
福美折田打在ニ中、来初文の者沈、折田の
同形、協儀出、以部費ニ費と其、台南の量
柄、佃煮を贈、高橋澤三土田、香乃、たのしく
七日、河津、飯後、沙留、全集、し件、つぎ
坂内、初合の、結果を、送る、と、笑く、江口、基成、并
妹、来初、初朝を、祝、し、其、元、と、元、と、銀、原、の

穂原製

寮に、焼、香、を、焼、い、す

十六日

晴、今、初、初、初、来、玉、川、堂、三、紙、を、贈、い、村、口、香、房、に、廿
五日、者、折、代、折、平、大、観、之、の、者、折、其、元、村、上、塩、川
三、尾、と、い、く、二、尾、大、隈、房、に、進、上、白、木、倉、其、破
店、火、災、を、送、し、も、数、死、傷、あ、り、佛、に、祈、り
を、送、り、過、浪、船、の、状、を、見、り、州、美、に、飯、一、七
ゆ、く、り、亀、山、素、三、と、い、大、公、高、村、り、雪、山、素、山、如
一、幅、を、贈、り、十、五、日、挿、入、四、時、山、素、家、の、繼

志公之路去今夜日忘年令とひく

十七日

物出の却改筆洞越ニ有久江舟一程打家ハ
身法、知人のあめ二三紙押書、左布哇機
留去々々未也井口似南と死法、真圓「数冊
を定めて未々十畝今々未也山田清心平法
新法の節子り物を焼く、死法と筆
す、数葉文行を、於て英一條短冊兼十
二幅を贈ふ此後有二十四也、佑春法と七

標原製

面鳥と花弁の並置と書と未

十八日

日

時、放紙を筆す、木林望三子、高田昆四ニ
七面鳥の由と語、畝目美葉十子、橋、人
を假して唐木を割り、新を心の、午後出遊
館生に物を集めて置く、城、佑春と、前夜日寄
の寄と、寄七身、印、刷、分、此、多、負、平、石、恒
久、未、揚、小、杯、儀、と、中、と、左、右、良、法、と、語、り、未
る、此、百、何、回、直、法、子、の、置、酒、と、語、る

十九日

晴、賀田直流と、野人趙小琳(錫山)双橋并
朝鮮産石市眼石と銘々、大久保雅郎未
接、高橋淳三とも未也、散策十二時由也、其
時桂次りとも塩川利未、谷下とも早稲多島
と字の毛母のよの漸く寒し、午後又散策、
平内登美と池村とも未接、

二十日

晴、武田尾ま出、以郎の要件よりとも、早稲接、

榎原製

止山花とも注射を多し、十時、尾田印、今迄、
リ、其、其と行山、不在中、山中樵、才山中忠樵
才、其、其、後、田下、以、次、とも、梨、果、一、函、を、寄、
て、其、其、之、文、底、之、春、秋、以、年、特、輯、部、之、予、の、地、
華、壘、山、子、摘、載、塩、政、侯、次、り、とも、未、也、
以、利、未、午後、武、田、尾、ま、再、未、午後、散、策、又、
川、本、とも、画、山、花、を、購、ひ、四、石、を、心、に、録、し、て、留、る、
ラ、フ、カ、テ、オ、ハ、ル、ン、の、神、回、日、本、を、讀、む、

二十一日

二つ目考、内子、万田海す、幸知島、素久保、
貢、藤録、以、芳田の、高、染、沈、去、を、難、解、を
寄、来、る、ハ、玄、の、神、回、日、本、を、演、い、文、藝、春、秋
し、謝、金、十、二、日、利、未

二十五日

大正天皇祭

明、朝、未、始、解、を、来、す、信、可、う、光、を、付、之、
焚、除、の、白、木、皮、を、卸、の、を、扱、を、掃、ひ、更、く、丸、美
之、店、一、二、の、扱、を、掃、の、を、演、生、を、と、致、し、下
の、文、行、考、を、治、り、を、動、定、の、向、ハ、万、五、十、日、
掛、入、更、く、ハ、此、成、高、の、造、業、千、冊、外、一

藤原製

帳と簿、の、扱、の、扱、を、掃、ひ、更、く、丸、美
セ、了、り、今、日、ハ、一、を、白、木、皮、を、卸、の、を、扱、
より、未、去、今、日、ハ、一、は、何、れ、を、治、り、を、動、定、
より、未、去、今、日、ハ、一、は、何、れ、を、治、り、を、動、定、
供、す

二十二日

明、山、田、信、行、の、書、の、種、を、今、年、二、冊、配
本、取、扱、の、を、治、り、を、動、定、の、向、ハ、万、五、十、日、
三、三、交、付、再、更、く、お、上、壇、ハ、三、冊、代、十、三

田、高橋次吉、併者代七田、継志、今、
（昭和九年分）十七田、為、
千田、第一、
交付、印刷、
書、
を、
泰西、玩具、
回、史、

二十七日

雨、
の、
白、
今、
協、

標原

を、
高、
よ、
を、
余、
并、
長、
送、

二十八日

明村山秋浦劉在春來梅朝未四民乃多之呢
たんりつ一文酒席の愚答と兼し日記ある川清
こま江島も酒を飲り来り田村社二印其
梅も甚く支店も来り市時長杉久保
黄に投間半後遊玩と兼す二三の家と物を貯
りて夜染地錦も十畝合あり陸奥す満洲
四政府監査官法務省も余の著述の寄贈を
需めり荒木十畝も其年の御題を画
し色紙を貯り

二十九日

雨朝も例年の如く家庭が餅を搗く新餅と
兼し時とありて光田は白米をゆき一二の
仕立もを熟す古兵衛と酒飲もお生にお
を焼くおゆきと古兵衛も買合るを寄
て来り後合別在在飯高の玉膳分四十畝
拂湯

三十日

雨朝も例年の如く大津橋一丁遊子棧

其の未書、金山好楽山杉山馬おめお板出
 しし未出、生る山あめりしと由あり交付、方々
 しし行々の利来、静る、後むすのを消す、内
 子支拂、忙殺、年々早、こをさる、の是勘定也、珠
 現、潤者、度く、ち、現代、二十の、五、十、支、拂、内、切、録、を、真
 文、吹、お、一、三、家、に、~~解~~、~~入~~、~~電~~、~~山~~、~~年~~、~~三~~、~~大~~、~~合~~、~~而~~、~~村~~、~~の~~、~~輕~~、~~井~~、~~の~~、~~村~~
 を、回、し、た、る、一、冊、を、持、り、示、す、お、谷、子、彦、と、近
 若、の、法、丈、に、古、書、價、之、研、究、し、と、考、へ、て、其、の、~~山~~、~~海~~
 の、重、極、と、未、出、~~支~~、~~河~~、~~の~~、~~鏡~~、~~茶~~、~~平~~、~~と~~、~~又~~、~~う~~、~~八~~、~~巻~~
 三、個、利、来、~~利~~、~~来~~、~~澄~~、~~と~~、~~取~~、~~後~~、~~深~~、~~利~~、~~来~~

棟原製

三十一日

頃、本山大五社中并、尾崎行雄夫人の計を傳、~~の~~、~~朝~~
 未、能、取、を、養、す、預、金、取、り、の、事、年、内、に、引、出、す、十
 一、時、出、湖、の、事、此、の、事、況、を、見、し、ゆ、し、の、款、目、美、甚、上
 り、未、書、久、保、資、と、~~荷~~、~~録~~、~~一~~、~~画~~、~~利~~、~~来~~、~~此~~、~~日~~、~~後~~、~~の~~
 未、尾、二、年、の、紀、要、を、採、す、~~年~~、~~年~~、~~の~~、~~條~~、~~動~~、~~定~~、~~取~~
 の、入、り、未、全、部、満、ち、不、要、を、煩、す、こ、と、多、し、
 夕、刻、し、し、杯、を、着、け、一、醉、持、て、又、記、き、し、七、紙、分
 遊、こ、と、ゆ、し、利、の、~~の~~、~~お~~、~~く~~、~~し~~、~~七~~、~~紙~~、~~分~~、~~一~~、~~卷~~

起者摘注

本年何事を以て此の例に依り本年日誌の末尾に
題名の大意を記し加へてエシートすること如左

一 豚尾大腸を以て出魚元として十の河林酒
禁是、魚類、鶏、肉、牛、乳、茅の類、食を以て
撰養金内

一 日誌印刷会社の月刊ニエト大に活字禮儀
一 本年と云ふ事

一 本年四月大隈侯敬慕会に領事として酒
造式活字執事會の文書をも見以て大隈侯

の原稿を日課として校閲日未と一千頁
了

一月十日大隈侯薨去他念日ハ先侯教養
今定の委員大隈家別邸ニ赴令予委
員長として校閲の事を協議す

一 本年の日報を自撰老録と題爲し
毎月一冊筆録を幼く算出迄十二冊
編く畢するにん余が隨筆也

一 三省の給入辭を編纂の材料と決す
これら家老の鶏肋雜爨十二冊凡
三

榎原製

史料北冊發行

一月十六日熱海におよ一日物も更ら
越きおきりに隨筆の筆心をいつと
一文藝春秋の囑るに應じ隨筆ルを二冊
を寄あり

一 政友大津溥一印死去

一 小野梓自筆日誌留案日記五冊海老
式流中ニ發行

一 二月二日所得税四万六千四百
円(電報料代納
付

一 五代四曲男提去 二月十日

一 二月十三日書誌を會見と共に家内図書
寮の宋本と見終つて安田善次郎に
會す

一 沙翁全集排毀事件起つて直ぐの處理了
す

一 徳選挙終つて民政堂振らる

一 橋本新吉と中山房の女子讀本に余の
隨筆中「と」の一篇を挿録せんことを
需む乃ち流す 二月廿八日

一 三月日書誌を會見人と東洋文庫の宋版
并命良甫跋其他古鈔本を見る

一 文書を以て見ゆ大隈侯の存稿全部測り

一 三月八日敬慕會堂の要員會を大隈侯
踏之洲き亭にて莊嚴の事項を攝録す

一 岡琢麻呂暗殺を先づ井上前花相暗
殺の不祥事あり而家方面相給也

一 上海事變一紙後を生く

一 文書を以て見ゆ大隈侯の序文を記す

一 三月十七日一ヶ月後の春城會をひらく

十八名出席

- 一 二月十九日宗家の継志今川陽太郎
- 一 大隈侯敬慕今川吉元宛宛書重時河川手放
送すことし、ちう其の原稿を化す。四月
- 一 田中吉山伯編纂の古往題跋泡見録
を自ら騰字十数行を成す。騰字中
吉山伯来訪
- 一 二代目休翁伊助とて余の舊借二巻五十四
の返函を従へ来り乃ち僕印す
- 一 三月廿八日都心の野子記者を招き敬慕

標原製

今の披露とるし、宣侍を囑す

- 一 四月一日北海と赴き、何の道迄と共、離騷社
の舎と臨んで拝見、赤伊豆山の渡田を訪
問し、道迄の書屋に余の題し、顔面の
彫刻とんぼも見る

- 一 十年前大隈侯國民葬の折、人衆の刺を
授けしものハ、其刺回者致し保存さ
す。故郷今川令と臨んで刺心紙廿三冊
に貼付し、余題署四民表試帖と云ふ
并に序を化す

一 四月五日敬奉今書の委實全部當日の令命日
 比谷公今書に令し、余も移版の報告を
 せしむる場を給し移版の打合をせしむ
 一 文書と見せ大隈侯五百頁版四月九日
 印刷成り十日、暮前祭に靈前に捧ぐ
 一 四月十日移版のやく日比谷公今書と大隈侯の
 四氏敬慕今の式を行ひ譯を海濱今書とい
 く頗る盛況今衆國激此日若くは人の未
 今四万人の上、魂の今席上余定り
 委實長くと七年書今以来の経思を報

榎原製

若くは、南北舟中移版の如く見事時間
 一 大隈侯に就て敬送を行ふ
 一 四月十五日田中吉山伯を吉山に海の北より高
 小峰伯を自邸に招待余も亦其の
 一 四月十六日横文重道と祝ひ霞山伯に譽
 后を受けし追衛公見才を見也
 一 春陽也とし龍徳「本州」月刊のつき随筆
 一 一編を定らす
 一 吉山伯新築記念の冊子に追憶録一篇
 七字のす

一 放送局より前日の放送に動し謝金三兩を送り来る

一 日清印刷会社創立五十五周年に際し全費に内祝酒肴料を領り余も社長として七兩五匁を送る

一 杉本金太郎を訪ふて兎の内子と協議す

一 大槻家より盤石の寧靜閣集版本全刀と送り来る

一 四月廿八日早大の大隈侯十年記念会

臨去

一 帝國教育会分の囑を承じ其施設に余の幼時の教習に就て一文を記す

一 三省書局の中等國文教科書に余の絶筆中「松の風流」一篇を採録す

一 埴物館の肉漢文化展覧会を参りて亦民族美術展覧会を参りて見る

一 圖書館場会より大人会と臨去
一 五月十四日書法会の日人と共に郭嘉中文庫と訪ふて宋本を見る

一月十五日大倉首相白書官邸に於て海陸
青年士官：銃殺さるる都下為ら震駭
新潟県の校日忘念と田下文次方より
余の口校舊夢法を印刷して出席
者：領の

二月郵部依然振の半期も無配南
五十公野所有田比叔と獲四十二田代理人
土田秀大より受元

五月二十八日大隈藩国民数慕の紀念碑
竣工候の墓域と建設をよりりりり付執筆

標原製

式を行ひ余実行委員を代表して式辭を
陳ぶ

五月廿五日齋藤子と首班とする綜合内閣の
但馬氏

一月根西直光 五月末

一月次市況の四文教科書に余の隨筆中より
秋三樹」その詩人も追ひ出せし」の二篇命を採
録せんことをと申し渡す

一月美術学校教授森田亀之助を招飲

六月五日同方館場より友人と厚木に赴き

相模川に舟を渡へて香魚を漁(一日の
漁お)を試す。

六月十一日中野早中野校長の還曆祝
賀会に臨み一場の演説をす。

田山回山会に臨む

早大の生の書道会に臨み書簡に就
ての漫談を為す

日清印刷会社を季祝金八分余の
受け金配当金六万廿五圓當興七千
六百二十七圓七十一也

棟原製

余の所得昨年が二萬六千五百五十圓
なりしが七年分査定額に減して一萬
三千九百十圓とす

益仕拂信契約七千七百圓也

旅中表紙紙死云 六月十一日

講演社の婦人部会に臨み既怪ハ日案の
一稿を寄す

余が所感文を採録する早速報正も成り居
る

一 雑誌本州に於ての漫談一本巻の主人献

二の巻と定めて、野宮、香山、楳村の感念、
 一の巻若し二の巻を校定す
 一 全巻中の女子國文余の隨筆より各二巻
 一 二巻を挿入
 一 昨年修史編纂掛へ貸付の家元古文
 一 書二十點皆戻り来り
 一 宮崎二郎死去八月一日
 一 文書をもえたり大隈侯「此書中の文字今が
 出の部」に於て書意すゝつとき再び序
 文を改む

榎原製

一 京都修史改定 野宮、香山の女子新刊以後
 本に余の隨筆中「今」の二巻の挿入を
 清め乃了流す
 一 篠田篤(道)の如百法に序文を其の
 一 上大塚に於けり印刷会社工場
 一 成りつと八月三十日換分り
 一 本年の暑中無聊を考ふる為めつとめを時
 向に關する隨書を淡破す
 一 八月三十一日支那の場合の編纂あり係る英文
 大日本「中」二冊出版

一 九月三日長岡の校舎を二階と爲め修繕
此行先を付ふ長岡の今を以て終り新島田の
校舎を二階と爲め修繕を以て代つて修繕せ
しむ、此行西条丹波に一泊して翌日岩
船郡辰田村の予か舊址を訪ひ、高瀬
湯治、鷹の巣の三湯を以て討取中
茶の松月庵に宿み余が考き其つて
二枚の扁額を見し。

一 北群航路開港のつぎ、新潟縣知事市井出
京招へんと在京に出身有方者一巻に

榎原製

會し對策を講ずる事也其の

一 十月一日五郡八十箇ヶ町村と東京市
を併せ市とする。

一 渡田鐵工場の爲め奪天二の三空額を
拂還せしむ。

一 不用洋装圖書三十九冊を細川忠
庵より奪取せしむ、此價を四十圓也

一 當り、隨筆早稲田七巻を奪と一早大早大の
物部右衛門の思出を奪と一ことあり、ことし

早大五十年記念の寄附の志を連載せん

ことも祈ふべきこと

十月七八九三日東京を橋上へ移し復志

今の主従を給ふに成列を為すこと余は

「成列」と呼ぶ三十階自由成列を

す

十月九日富山房の新築成り招いて一晩

す

山口別荘にお死す

九月十日の宮の合天井板に捕まると

需め来り凡そ其長女の四字を題す

榎原表

十月十三日早大の幹部と共に永井板板の

及部におくん暇の暇をす

十月十日者城休書前考第一回記事

十月十日者早大に於て大隈高田細像

除幕式を行ふこと臨時

十月十八日秩父宮の台臨を得て早大

五十年の式典を奉ぐ

十月二十日の節生命儀法今此新築

成り其校舎の室あて招く

内閣の成り(五り)を招いて考法号

今日人と其の珍巻の古刻を見る

一 由年芸集の付とつき 版六十三冊約老万
枚紙津有村前島男紀念郵便物紙
二寄貯す

一 讀本了り二萬冊 日進摺法を寄す

一 早大史のその出版研究會の雑誌 標題
揮毫

一 早大を記念として大隈故紙をのり銅像
を贈る

一 早大五十年紀念に演劇場物館に於て雅

種原製

樂能楽の陳列をさす、書由有と雅楽
に對する具下賜さす

一 小品玩具類千餘品をさす 一 架の納め切
りず二万餘を列架に移す

一 十一月一日伯壽田中光顯の九十を壽
す 今さす臨席す

一 十一月四日杉坂屋の馬琴今に臨み一場
の演法を為す

一 先般待客家の入物に付りて物者二日
滞在して物毛

十一月四日定款預支四千五百圓の内七
百引出一更に三千八百圓定款に預け
十一月四日所得税附加税共三千八十七圓
四十八圓納付済

十一月五日ブックドム社の借入係り書物
教味の座談会と踏去会場教習会会館
徳市安田川瀬其他未全

市山房坂本社長より新築記念品代
としを戴る回贈済み

十一月十日株式会社元引所講習に於て文の

標原製

協会の主張講演を概す

「書物教味」雑誌に「古本屋」と題する一
稿を寄す

市山房の「大言海」出版投資の案を
扱ふ

倒壊せる園内の森架を修理す格其他
樹木の手入れ

十一月十九日教習会館に書籍刊稀觀を海
列会をいづく、書籍刊影講出版成り

圖書館雑誌に書籍印に於ての考察

編を定む

一 田代亮女の若良定と山陽の序す

一 印刷四社連合の白筆日今に臨み現下

印刷界の局面を展開する協議を以

大體と定めて委員と相托す十一月廿二日

一 文章春秋の嘱託に随筆「葉山子」

行を定む

一 西村真次博士の号位を得た二のき祝賀

今に臨み早上漢院とす十一月廿二日

一 本州「新年号」の出版と詩「外隨筆二

榎原製

則を定む

一 予の序したる肥田の長三の錦川遊

稿出版成

一 予の家の鶯花に係る三回志并史記

評林は豊田の成文を以て字の解し未

一 十二月末十三月初のふりけり久方振り風邪

に罹り、数日おん金の、前月庭園に是を

踏み損して衣冠を挫き十数日悩む

一 十二月七日築地銀座に十四年が十五年

が一口橋大目回家人をひくく、自今あ

一 年度合併の令を早く決す

一 十二月十日出版部協令をつき本席も無配ある余

一 八の字中の賞其を受た余の著書印税五十四
改回

一 横濱の出席一場の演説をすす此日今
すの九十九名

一 十二月廿四日印刷分社株主協令を
いさき六分・配南も未す役員に多分の福
勤あり

一 出版部不況つき買付廿六萬圓よ上り

榎原製

資本半減論内定の年を待り余主
幹を辞任お後段とすこと内定

一 本年四方の収入多分と予施幅の収獲
二十と六七と及ぶ回書と併せ七約二千圓
を費す

一 本年七月内一回必すリクセン注財をなさけ
年々継続す

一 國民のこの新年節、酒席の息をこころ
を立す

一 満洲國政府と余の著書の出版と需

のまゝ

昭和八年（千九百三十三年）

一月元日

晴、天氣解、うらや無風、まよひし例のこと、居
寐をぬみ、師をぬみ、胸よらうらや、久よき
堆とらうと、利事のか、まを捨、て後、光を、柱、七
淡者の、親喜を、宴し、地、に、城、と、兼、り、京、橋
こ、出、び、又、別、し、と、遊、こ、車、車、野、合、を、こ、じ、い、ん、を
傾、け、と、物、く、る、必、の、時、召、七、早、め、七、偶、の、陶
然、解、め、七、我、の

二日

晴波に献吉初め又三来る。閑に乘して早大を
報に授け給ふべき事。是物故に家録十頁は
かり氣事。其のを費す。二時を以て漸やく
其腹を完して酒を親しむ。刻まじし時
亦此を飲む。こころは鳥の年比からな
ど。よして家人と歌ある。

三日

元始祭

晴、初未。是物故に教板を筆底より供んじ

棟原製

出遊中を橋を渡りて浅き水に地を踏んで乗る。浅
者の人出遊くべし。地を踏んで満る也。物も
後石の三印を以て未訪。喜代四并に五十島
旗のく物を送る。是物二十枚。早稲を報に寄
す。平等の序。後今業記をぬめ。是物。後
考。後味。利未。内田嘉吉の卦列。

四日

晴、前二日。比すんば。午の寒。其を以て。早大
絶。其を以て。午の寒。其を以て。早大。其を以て。早大。

向けを考す、天氣雨分れ七日の原迄と陽氣
去の如し、十二時梶の倉に着、坪中へ人を考り
着部とせし推の世甲の鴨と粟とを贈り、同
倉に井上辰次あり、款睡して後行内道達を
訪ふ、杉本(稀音家六回中)の別荘に三六の
内を久人見の別荘を過き、刺を過し七詠處
に留り、三六の公後金子馬流と露木の訪あり
流り、今次予の旅舎に遊遊家七秩燈念り
遊利、堀幸一とを憐ひ来り、火箸を
喰ひ下物と考す、一、天、寝後、眠と得す、二

榎原製

時迄、旅流を考後す

五日

時、今朝を考す、休めし内を久人見と考す、
仍、中宿宿下りの外物に人多し、内を久人見と考す
と考す、久人見と考す、去つて吉住六三
の禁山を考す、ゆめ七久方振流し、只み花を
遊し、辞し七重に打、午時、七時、坪中あり
遊り、坪中あり、坪中あり、坪中あり、坪中あり
坪中あり、坪中あり、坪中あり、坪中あり、坪中あり

ふぼりの家：招うる、今夜如く一浴す、おまハ
雲の神、四日本と道退く、貯る、初り入り
ふぼり。

六日

雨霽んず、昨夜快眠を得、今朝七時半起床
餐後読書を業し、雑法改定を讀む、亦
学報を投する、きき、学苑物語家探数頁
と業す、午後雨漸く収まる、増田退る迄
に招えん三時、井上園方と共に行く例の

標原製

如く従談漫の席上押是をいあり九時辭し
て旅案に悔り亦井上と對的して寝ぬ

七日

晴、朝来旅案を業し、又物取社家探数頁
を採す、生田七時半迄、予の法説を掲げ、
西民多入午、午後ぼりの金子招折る、
未り一時分旅法を交り、道退く、あま山子
の書函二枚貯る、岳雲歸り、狭隘入退るを
以つて夕刻下階、家を移す、夜入る、まじ

他家録と書き續けし十枚成る、家名列の時
日字の字と報す、井上関の夜に今治す

八日 日

時、朝未諸家と録し四五枚成る、市中に散果一二
の籠者と猪の、家名に描す見昂死りと見えんて
リと報す、故人坂本四方太の幼時追憶の夢の如
しの一巻と讀ち、道徳の為に元宿傳部
の和歌と續古今も抄録し、また山田守
の傳部の身も云々とあるの古事記の山田

標原製

の曾富騰を應用したるものと読る、坪内と出
版部改革の事を務つて別く、三時の汽車を井上
田京、東京宅、者札を考へ、深更夢醒の燈を讀し
て去江紙雁の比行教の命と讀み、二時万後又眠る

九日

時、今朝況而不に在候、今午に時夜おそく未泊と
云ふ朝夜後石坂田の詩人松坡春、剣心春と
流す、皆亡友五峰、と嘉徳縁あるもの、午時柱と
重おれ、飲ひ後、天壽の如く、三人余の為り

寺画帳に記す酒飲の後梅園を歩み
ゆくと石橋茅田原、遠くは河原の柳を
中々ある、あま山子の甚詞を詠し、園を渡り
る心をやめて了る、龍録を兼して夜ふけ

十日

晴一夜、午東多、五時八時廿五分乘車
十時東東原、着直る、ゆ電、函守中別条
より、不在中、利未の杖、其地を捨て、芝を休
ふと神楽殿の裏、石を踏む、道迄十畝の末

棟原製

くう五枚束、杖を托し、午時田原、洋傘を
し、ゆつと臥す、不在中、冬衣を脱ぎ、物を空る
す、あま、カラスこと、葉子、古物、三、川、遊、休、各、所、於、
ニ、カン、台、洋、金、柄、鞋、の、似、ず、し、冊、三、推、基、こ、さ、び
矢、吹、く、み、海、み、カ、ラ、ス、こ、坂、上、等、也、東、京、藝
漫、あ、ま、の、高、し、メ、刺、起、き、を、あ、ま、の、を、見、吃、向、取
臥す

十一日

雨、家創、ゆつと、餅、を、念、ふ、出、取、部、の、雲、待

武田尾花の段上り例の注射を施す
款金五十圓引出し家内を充つ。午後二時半
ハル海に赴く。先づ丸印ルに書籍を
贈ひ車中讀んじ無聊を消し、五時止る
植は旅飯を投ず、夜三時目を覚めし旅法を復
み天の達す

十二日

朝報未読と筆す、城内内を歩し、
旅ある城内に午ふらに相いぬ由あり、晩を相い
り休す

桂原製

ふ、力十一時止る、例の如く後、午後八時の
際を交ふに二時解し、四時更に由衣久寛を
馬場下の別荘に泊る。晩飯の便をを受け、飲酒
次、畫冊畫幅、懸賞と化す九時附解、旅舎に
り休す

十三日

朝報未読と筆す、書見、借入、市中に散策
す、千々雪降り出づ、摺り帯の細川龜布、若日本
寺領庄園、経海史と讀み、午後遊ばし、遊ばし、

い真の事をいふは、
とめめ早くいふ

十八日

昨日の夜、
武田信玄の墓、
若山一雄の節、
也る朝日三輪、
し来り、
山、
科、
女、
校、

榎原製

杉山守三の、
送印創回社、
と、
席、
毫、
才、
す、
省、

二十九日

山陽者東陽之魁岩と云ふ乃ち青一と其の
六考遺帖に押毫指と略し、其五十田歟
引出す、午後三刻と詔す、其海州の名實
人形も觀る、五時日比の七廻忌に扱へ上
野の野平村園に支那料理の饗宴を言ふ、
栗木羊一、香と郵送す、深夜雪降る。

廿二日

日

松木の雪三四寸積り今朝降る、三者を
修入る利辭典廿五冊到來、んを完成、雪

榛原製

降り、のえんも無聊なり、かたも午時酒を飲
み解飲す、三時丹共先亦来る、此を牛
肉を饗する、休長良一、先人の遺稿を考
せり、

廿三日

晴、宿不登村井山入の御座に振あり、石塚に
「熱海」の向方の宿といふを、今中
ハ「こい」若(古左)の名称といふを、客の
又大槻山(電)遺族と御座、四史四冊を

寄とある。十時と出の部と有り高田と出
政部改革問題と内談し午後三時と到り
也毛三省並大槻と出也と見す。晩間
今関天動(專座)其邊小若山梨福川と共
交遊と見ゆ。

廿四日

晴。午前六時と出。狐河の夕下ハ解ちを賜り来り中
野城平木法。平野登生共支来訪。午時
俗楽園の今つとき打合とありとあり。矢吹

省三と見ゆ。カラスも。寄とある。高田流吉と見
来也。種紙を兼す。高田流吉。三時半
口清印刷新部と俗楽園。赴き都の種紙社を
迎へ。準備とあり。五時洲合。余曰社印刷と代
表と見ゆ。挨拶とあり。

二十五日

晴。同方飯協合と見ゆ。種紙社来。高田流吉
四時今と見ゆ。杉山守と見ゆ。城と見ゆ。高
田流吉。押見と見ゆ。文行堂と見ゆ。二三

の同考と稱し二十山拂入、外出中、荒狭減一
寸、功、午後氣多、又カク、起り、喉嚨、困み
寝、四、田下、政次、馬、物、物を、控、亦、押、其、を
托、

二十二日

時、氣、多、又、未、金、一、が、喫、烟、を、控、さ、す、こ、と、時
日、の、如、し、山、田、侍、位、古、何、可、身、流、荒、狭、減
一、亦、寸、功、午、後、控、始、を、著、す、春、陽、を、
う、謝、金、十、山、到、来、今、日、午、後、借、由、園、一、都、下

本、書、店、を、扱、く、日、を、ん、ん、も、氣、多、又、カ、ク、の、故、を、以、つ、て
接、伴、由、從、を、辭、す、克、宗、家、の、又、島、と、共、に、觀、劇、に
行、く、

二十七日

時、久、保、城、若、狭、減、一、寸、功、新、石、常、木、も、雞、の、子、一
指、寄、せ、り、あ、り、病、未、金、へ、寸、抽、煙、法、を、口、を、清、め、
各、殊、に、遊、宴、を、受、け、午、後、宴、を、目、し、七、九、四、ル、凡
一、二、物、を、獲、り、を、物、す、林、野、木、久、の、一、西洋、の、意、の、日
本、化、を、讀、む、

二十八日

晴、難波と筆を、内刊報の... 原形料... 四
列来、栗木羊一段に献古... 簡す、改上弘花...
注射と云く、品田地示... 来也午後一時まで
美次郎を初河當史を今の座談会... 跡を
夕刻辞... 七物...

二十九日

日

晴、朝来難波と筆す、公村... 来也史を
伴之始生と物を賜ひ午後... 後河長、田代亮...
榎原裁

来指、西洋思志の日本化を... 渡下... 法...
来也、丑時の多... 到り... 時... 高田松平
増田... 通... 子... 母... 會

三十日

晴、坂に献古... 来也... 筆... 杉... 瀬... 恂... 来... 流... 史... 来... 書... 猪... 原
を筆す、楠瀬恂来流、... 龍三、森脇美樹
... 列... 午後... 散... 来... 丸... 比... 比... 物... を... 持... ち... 七... 物... へ...

三十一日

時、朝来旅程を善す、以上より注射を施す、氣
が支漸やく軽快を覺ふ、大概發熱も亦、日
本園の改場等も亦、山登三三、簡下、午後
高村真天、月夜、其の夜花の高橋草、城、
耶馬溪山、其の横、其を複物もしておめり
四華を燃ゆる、散果丸心、其の骨、其を
今、其の大人形、二二天木、其の二、其の
成へる、其の、其の、其の、其の、其の、其の、
五成る、其の、其の、其の、其の、其の、其の、
二、其の、其の、其の、其の、其の、其の、

二月

一日

時、高村真天に投簡、山田寺必身初、複物
本二能本、其の、其の、其の、其の、其の、其の、
其の、其の、其の、其の、其の、其の、
四、其の、其の、其の、其の、其の、其の、
其の、其の、其の、其の、其の、其の、

二日

時、在家、其の、其の、其の、其の、其の、其の、

七漸かく此る

五日

日

晴、早稲と春湯中、旅帳本抄一、二家あり、高打
古夫、書史多、會々、未出、田川、政文、子、以
酒、之、世、秋、初、田、英、村、に、紙、本、名、刺、を、與、ふ、楠
淑、日、年、一、二、差、出、を、お、る、す、午後、十、時、筆、原
稿、を、伝、ふ、京都、馬、河、部、江、も、も、不、久、手、を、終、る
未、の、或、胃、漸、く、快、を、服、薬、を、濟、く

榛原製

六日

晴、今、向、市、原、才、多、ゆ、此、心、の、鳥、の、志、録、を、終、
了、村、山、秋、浦、才、訪、其、常、に、應、一、山、陽、書、院
の、運、而、に、赴、す、高、田、と、電、報、を、交、ふ、京都
神、樂、江、谷、石、と、一、山、刊、の、書、山、澤、を、定、む、て、身
の、十、一、時、光、を、得、せ、し、出、也、中、央、停、車、場、の、
在、に、浦、一、と、ゆ、く、下、林、の、車、の、行、功、丹、三、場
才、也、才、の、下、林、大、隈、倉、の、傳、を、與、ふ、山、田
尚、危、し、未、出、旅、帳、を、筆、す、

九日

所給法本中、^下若村忠孝、二十枚投給
大改十林儀、^中一々も書、^上若村忠孝印、^下若村
三策、^中若村忠孝、^上十時印、^下若村忠孝の
後、^中若村忠孝、^上若村忠孝の件、^下若村
前島重役、^中若村忠孝、^上若村忠孝の件、^下若村
オ、^中若村忠孝、^上若村忠孝の件、^下若村
从危島の報あり、田下、^中若村忠孝、^上若村忠孝の件、^下若村
も交代、^中若村忠孝、^上若村忠孝の件、^下若村
石塚、^中若村忠孝、^上若村忠孝の件、^下若村

種原表

色別長、石塚を代へ、^上田代、^中若村忠孝、^下若村
一、^中二時、^上死云の由、^下若村忠孝、^上若村忠孝の件、^下若村
也

十日

時、相末、^中若村忠孝、^上若村忠孝の件、^下若村
を給、^中若村忠孝、^上若村忠孝の件、^下若村
若末、^中若村忠孝、^上若村忠孝の件、^下若村
浦、^中若村忠孝、^上若村忠孝の件、^下若村
押是、^中若村忠孝、^上若村忠孝の件、^下若村
渡津代、^中若村忠孝、^上若村忠孝の件、^下若村

助回付未通信、山口権三郎の送子と聞
ふ、即ち此書と草子紙に一本、今付ハ一と
未志、庚井と、體の親子法一符路うる。
高山紀高死云

十一日

紀元節

市、関方よりし、娘法時、つぎ子母志、森脇目助
小林政助と、継志、つぎ、権三郎、海濱と、頼七、伴
森脇と、伝頼、田、下政次、と、未書、十時出、
部、北き、幽時、今入、協、名、高田、坪内、と、余

榛原製

出、殿、新、退、藏、つぎ、飛、公、式、に、行、り、掃、儀、す
る、不、あ、う、と、後、衝、と、申、す、田、中、早、大、派、長、お
り、カ、不、説、あ、う、進、と、西、式、の、重、役、今、と、申、す
ふ、と、一、散、今、う、田、代、亮、今、の、生、お、式、に、臨、む
能、り、す、身、も、今、之、今、と、梅、枝、と、申、か、す、株、式、今
社、山、丸、高、今、の、林、瑛、と、申、果、物、を、能、り、未、志、聞
太、中、一、一、間、と、言、の、す、故、に、献、と、申、未、書、

十二日

日

市、高、森、率、中、今、と、未、書、之、以、城、今、の、ニ、ユ、一、知、以

叔の字源田海士のつアシガムとボルシエウイガムを復
た、古代四七地提三の法要：香典と老手、田之兼
一と金子子奇の二十一年前日寂教後市町米
四と使しル一ノ大ウ瓦ト大提飲と折衝、追提
給と法也、木林賜に托し以法志心之ヤ兼政助の生
漢の件十九日云席と決す、右につき、委細を考執る
宗家、報す、貴田和男、毎坊、物を給つと云
る、午後三時、終り、伊奈春秋公追領合
陳列の遺墨を乞ふ、房山湯文徳殿建設
の吳越人合と先懸遺墨目録を乞ふと云ふ。

標原製

家系六十教書とぬた

十三日

時、和田純いし未出、龍泉と筆す、日干天つと云
池の湘消魚死せん一人と倒るを急急の
千高を云す、右田親を引出す、坂口献吉
田村壯二いし身いし梅、坂口いし品と給ふ
、京都神出江卷石、乾苔二個郵送聞
大々いし未出、今夜星ヶ子茶寮、此年
辞任退職の前山鳥男の慰労を云ふ

新編の元禄の年任の高橋福三と祝す
其の重役打揃を之を結ぶ。田徳志令
月を之救世軍少将の物山中豊と云ふ
状を記す。四時此地震あり微動ありと云ふし

十四日

時、小林堂三兄弟に未だ松本長一の如くを久嶋半
吉の書に刊書の評論をとりてある。宇和島久保
文に問ふ。且つ山に火を焚く。十一時外出。船生に物
を備へ。例大なり。未だ問の八時後。晴るるを

棟原製

祝し。其の暇を船り。午後理髪。漸やく爽
快を感ず。文三兄弟の二十由(先月分)交付。船
中の問題。念々の行きつ。其の憂。震々地くす
股退後。のり。倒し。おかの元洞をうし。時を
移す。内子幸い。順境。そのの感。冒も漸
かく回復。と。夜。如く。浴す。

十五日

時、山田長一(現名協士)よりパンフレットを寄る。其
書。海軍の令。と。未だ。旋船を著す。松

本寺四回方被長に請す、今不出政部に重役
令あり、余の進退は是に關係あるを以て
出席せざる、濱田印刷機物志進不主濱田
初次よりして此年款を考いて寄るも及
礼に果物を贈り来り、又ハ重を以て能
の給ふより又ハ之文年約(一巻と贈りて何
り、大江の疾の母の揮毫と異ふ、土時紅筆
贈り、所き睦令に臨み、

十七。

棟原製

晴山中豊玄くも未だ余が寄物をぬりたる
期日達刊到達、能ぬを筆す、武田屯主の
ハ林山より見よの春をまじり来る。散采日を栢
の助、物を贈りてゆくる、俄入りの春霞暁
ま、然るありぬりたる内あり、又あるも春を未
る、日法生命と本寺配而全列、三月四日の出
版部徳令のるは除列、市公主幹を録す、件
七此徳令に附する、減資定款改西安未七あり

十七。

今朝降雪、朝来旋解を兼あり、午後開大方来
河、旋布子を古きつゝ、雪志キらうは降り五
寸餘降、つたふ、午余の施辰を春城令を
聞く強定の家、家故、病入あり故を以て
未月と定す

十八日

晴、庭内白煙に、朝来旋解を兼あり、政上の病又
の注射を受く、同古飯塚令も、未蝶、京都谷村
一太郎も、未書、入洋達まも、自若、雪在詩石

を言七末の、大江中夏、の妻元氣、未う、

十九日

日

晴、雨、朝来旋解を兼、未、林瑛、夏河、の海生令
の、貴田、作伯、の、留、家、就、を、附、ま、入、山、中、葉、(克、の、海、志、
を、見、ま、す、谷、村、一、大、郎、に、投、筒、六、冬、氏、三、十、三、日、
谷、村、一、大、郎、の、近、刊、校、注、志、抄、卷、日、本、行、録、
七、卷、の、り、ある、海、志、を、看、す、神、宗、江、巻、五、
末、出、四、時、如、糸、鏡、の、行、く、五、時、の、繼、志、人、を、
聞、き、小、林、政、助、の、海、浪、を、聴、く、海、浪、後、令、心

不在中松木北馬東の足馬こいり物と始る

二十一日

時、四時分、中松武吉屋係記御受係、款目表を
おとす未書、船船を兼す、お家の勢を返す見
先身様、おの采木のわた原、采木了、三平
大入の件、つぎ斗の寺、崎之、主也、あはむ
ふ、午後外出、お刊者と始る、おとす、今日
開、池に、おと、お、脱退を、決す、松本
喜一と未書、アメリカ彦自叙傳を讀

榎原

あ

二十一日

時、アメリカ彦自叙傳を讀む、池の、お乾湯
ふ兼、一人を働を、泥土を、掘り上ぐ、龜山
乗三、おとし、雨村の、お仙老、おを、始る中
お城、おとし、未書、文、お春、秋社を、寄、おを、依
し、未書、お船を、兼す、藤、お、お、敬、お、お、お
後、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お

時印刷舎此の幹部と柳橋島信とむり翠月舎
又此の、京嘉道系、大橋新大り、迎へて飲い
亭田若院香の、教科書亭田新園又と予
の松山風流と収載、許流を為村心
め、其の流す

二十二日

時、人足数入時、引つ、き、ま、り、池の土を掘
り揚ぐ、宇尾中、湯末の、久保貢と、未也
田若院、柳舎と、未書、アメリカ、ヒュ自叙

榎原製

伝を、説、讀、う、松平高田古稀紀念文集出
版、排、と、未、條、松、和、と、著、す、池の土泥會
振り上げ、今日、り、了、

二十二日

時、風、相、未、文、藝、春、秋、と、著、す、き、隨、筆、の、如
を、著、す、山、田、河、元、の、河、後、補、本、一、配、本
午後、房、の、自、叙、伝、を、録、す、時、を、得、今、尚、流、派、を、著
す、

二十四日

朝来船程を兼す、森陽四行書、去る船の
件につきお果を減す、日本圖書院、今と定
録改訂案の書類、関大、今と定、久保
貢と宇和島産のケツリ蒲鋒と寄せて、午
後田平貢大印の随筆を讀む。

二十五日

武田尾吉未始、校及不精、親筆、四行、
三、少、死、去、報、あ、敬、来、白、木、の、黒、股、陳、列、を

榎原製

見、船、生、飲、七、物、の、随、筆、刊、行、を、思、ひ、主、手
美、入、る、へ、き、い、の、を、旅、行、先、地、に、點、検、し
目録を伝わり、約七十則を得たり。

二十六日

日

朝来船程を兼す、朝来船程を兼す、
舟、是、船、に、り、佛、像、を、勝、六、十、五、の、海、方、及、二、献
去、依、伯、お、心、子、訪、午、後、敬、来、白、木、の、黒、股、陳、列、を
あ、と、傳、へ、る、去、依、代、四、行、書、の、

二十七日

昨、沙島田の富永流吉より物を贈る、古の
物と云ふ、平山登美夫社用たる車流旋
盤を翻して隨筆、又物あるき資料を採
出す、午後教養演説の松尾を訪ひ居上り
り墨堤を視察、丹月ゆ途珠環各二三の回
書と婚約の物と云ふ、元三三の死云々のき香典十日
郵送

二十八日

榎原製

今朝雪あり積るる、雪ふる、文行巻を
あて洋元控の自筆の巻を贈る、文三酒和
来、旅帳を兼す、川上高次郎、久奴の漫遊
記を讀む、京都帝國大学図書録、日本古刊
書目と寄る、

A blank ledger page with 12 vertical columns and a blue border. A small blue tab is visible on the left edge.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

A blank ledger page with 12 vertical columns and a blue border. A small blue tab is visible on the right edge.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

棟原製

以下全て

白紙

